

「子豚ハッチ」における小屋面積および運動場資材の検討

愛媛県畜産試験場

吉岡美鈴 宇都宮昌亀 檜垣一成

「子豚ハッチ」を利用した離乳子豚の屋外管理を普及させるため、小屋面積（1区：0.37 m²/頭、2区：0.27 m²/頭、3区：0.17 m²/頭）および運動場資材（金網、牧柵フェンス）の違いが子豚の発育や行動等に及ぼす影響について年3回（5、8、11月）調査した。その結果、一日平均増体重は3区で低く、小屋床面の水分含量は2、3区で高い傾向を示した。子豚のストレス度合の指標となる小屋内での攻撃・闘争回数および他個体の踏みつけ回数は3、2、1区の順に多く、運動場の利用率は3区で高かった。また、牧柵フェンスを用いることで施設の設置がより簡便となり、運動場の排水が改善されたことにより運動場の利用率が大幅に増加した。以上のことから、小屋の必要最小床面積は0.37～0.27 m²/頭の範囲内が適当と推察され、運動場の障壁資材には金網よりも牧柵フェンスが適することが示唆された。

畜種：豚、分類：畜産技術